（別添資料１）

事業所名　プレップ サポートセンター晴海第一

支援プログラム

作成日　2024　年　12　月　1　日

法人（事業所）理念		「みんな　笑顔に」 利用者も　ご家庭も　スタッフも　その家族も　みんなで笑顔に　みんなと笑顔に　みんなが笑顔に
支援方針		「認める　褒める　共に喜ぶ」 利用者ひとり一人の強みを活かし、個性を尊重し、伸び伸びと楽しく過ごせる居場所づくり
営業時間		放課後　14 時 0 分から 18 時 0 分まで 学校休業日　10 時 0 分から 16 時 0 分まで 送迎実施の有無　（あり）　なし
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	○健康状態の把握： 来所時に検温にて体調観察を行い、体調不良時の把握を行うとともに、自らの体調についての意識付けを行うように支援する。 ○健康の増進： 集団活動においてエクササイズや体幹トレーニング等を行ない、体力の維持および運動能力の向上を支援する。 ○基本生活スキルの獲得： 個別活動の中で、自立に向けた整理整頓（片づけ）の習慣をつけるための時間を確保する。 ○構造化により生活環境を整える： さまざまな遊びを通して全体の状況や流れが学習できるような環境を整える。
	運動・感覚	○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上： 椅子や机を用いて正しい姿勢を習得するなど、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化などを図っていく。 ○保有する感覚の活用： 保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚が十分に活用できるような支援を、遊具や器具を使った遊びなどを通して行なっていく。（例えば、縄跳び、ボール遊び等） ○体操やダンスなど楽しく運動ができるよう、状況（屋内・屋外・広さ・安全の確保）に合わせた支援を行う。
	認知・行動	○感覚や認知の活用： 視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵や文字、道具を用いて、認知機能の発達を促す支援を行う。また音楽やリズムを使って五感を刺激する支援も行なっていく。 ○知覚から行動への認知過程の発達： 集団活動やグループ活動の中で情報を取得しやすいように、絵カードやルール表を用いて「見える化」を図り、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう一連の認知過程の発達を支援する。 ○数量、大小、色等の習得： 折り紙や色画用紙、レゴ(ブロック)等を用いて作品を制作することにより、手指の使い方や認知機能を高めていく。
	言語 コミュニケーション	○言語の形成と活用： 「帰りの会」などで、今日一日の振り返りの発表の機会を設ける。これにより具体的な体験や言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 ○人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得： 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、会話のキャッチボールが出来るように支援していく。 ○読み書き能力の向上のための支援： 絵本や物語、紙芝居などを通して、言葉が豊かになるよう支援する。文字に対する興味や関心も持てるよう支援する。

<table>
<tr><td></td><td>人間関係
社会性</td><td colspan="3">○アタッチメント(愛着行動)の形成：
話す、聞く、触れるなどのコミュニケーションを通して、人との関係を意識し、身近な人との関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。
○自己の理解とコントロールのための支援：
指導員は子どもの特性を理解し、一人ひとりに合わせた声掛けや行動支援を行い、気持ちや感情の調整ができるように支援する。
○集団への参加への支援：
個別活動からグループ活動へ順に進め、一人ひとりの状況や状態に合わせて集団活動への参加を促す。</td></tr>
<tr><td colspan="2">家族支援</td><td>○子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助
○家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助
○レスパイトや就労等の預かりニーズに対応するための支援
○兄弟姉妹への相談援助等の支援
○子育てや障害等に関する情報提供 等</td><td>移行支援</td><td>○具体的な移行又は将来的な移行を見据えて支援目標や支援内容を設定する。
○進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助を行う。
○併行利用先や学校等と子どもの状態や支援内容についての情報共有や支援内容の擦り合わせ等の連携支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域支援・地域連携</td><td>○子どもが通う学校や医療機関等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取組を行う。
○子どもに支援を行う発達障害者支援センターや地域生活支援拠点等との連携の取組を行う。
○子どもが利用する相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携の取組 等</td><td>職員の質の向上</td><td>各種研修への参加と実施
○支援の方針・対応方法の考え方（氷山モデルについて）
○「訓練」「教育」「療育」を考える
○子どもの発達を考えよう（知的な発達、知能心理検査について）
○虐待防止研修　等々</td></tr>
<tr><td colspan="2">主な行事等</td><td colspan="3">１月　餅つき大会、　２月　節分豆まき・バレンタインチョコ作り、　３月　ひな祭り・お花見・卒業式、　４月　入学式・春の遠足、　５月　子どもの日、　６月　映画観賞会、　７月　七夕、　８　月コンサート鑑賞・夏祭り・スイカ割・流しそうめん、　９月　お月見・月見団子作り、　１０月　秋の遠足・運動会・ハロウィン、　１１月　みかん狩り、１２月クリスマス会　等々</td></tr>
</table>

（別添資料１）

事業所名　プレップ サポートセンター晴海第二

支援プログラム

作成日　2024 年 12 月 1 日

<table>
<tr><td colspan="2">法人（事業所）理念</td><td colspan="9">「みんな　笑顔に」
利用者も　ご家庭も　スタッフも　その家族も　みんなで笑顔に　みんなと笑顔に　みんなが笑顔に</td></tr>
<tr><td colspan="2">支援方針</td><td colspan="9">「認める　褒める　共に喜ぶ」
利用者ひとり一人の強みを活かし、個性を尊重し、伸び伸びと楽しく過ごせる居場所づくり</td></tr>
<tr><td colspan="2">営業時間</td><td>放課後
学校休業日</td><td>14
10</td><td>時</td><td>0
0</td><td>分から</td><td>18
16</td><td>時</td><td>0
0</td><td>分まで　送迎実施の有無　（あり）　なし</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="9">支　援　内　容</td></tr>
<tr><td rowspan="4">本人支援</td><td>健康・生活</td><td colspan="9">○健康状態の把握：
来所時に検温にて体調観察を行い、体調不良時の把握を行うとともに、自らの体調についての意識付けを行うように支援する。
○健康の増進：
集団活動においてエクササイズや体幹トレーニング等を行ない、体力の維持および運動能力の向上を支援する。
○基本生活スキルの獲得：
個別活動の中で、自立に向けた整理整頓（片づけ）の習慣をつけるための時間を確保する。
○構造化により生活環境を整える：
さまざまな遊びを通して全体の状況や流れが学習できるような環境を整える。</td></tr>
<tr><td>運動・感覚</td><td colspan="9">○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上：
椅子や机を用いて正しい姿勢を習得するなど、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化などを図っていく。
○保有する感覚の活用：
保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚が十分に活用できるような支援を、遊具や器具を使った遊びなどを通して行なっていく。（例えば、縄跳び、ボール遊び等）
○体操やダンスなど楽しく運動ができるよう、状況（屋内・屋外・広さ・安全の確保）に合わせた支援を行う。</td></tr>
<tr><td>認知・行動</td><td colspan="9">○感覚や認知の活用：
視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵や文字、道具を用いて、認知機能の発達を促す支援を行う。また音楽やリズムを使って五感を刺激する支援も行なっていく。
○知覚から行動への認知過程の発達：
集団活動やグループ活動の中で情報を取得しやすいように、絵カードやルール表を用いて「見える化」を図り、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう一連の認知過程の発達を支援する。
○数量、大小、色等の習得：
折り紙や色画用紙、レゴ(ブロック)等を用いて作品を制作することにより、手指の使い方や認知機能を高めていく。</td></tr>
<tr><td>言語
コミュニケーション</td><td colspan="9">○言語の形成と活用：
「帰りの会」などで、今日一日の振り返りの発表の機会を設ける。これにより具体的な体験や言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。
○人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得：
経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、会話のキャッチボールが出来るように支援していく。
○読み書き能力の向上のための支援：
絵本や物語、紙芝居などを通して、言葉が豊かになるよう支援する。文字に対する興味や関心も持てるよう支援する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>人間関係
社会性</td><td colspan="3">○アタッチメント(愛着行動)の形成：
話す、聞く、触れるなどのコミュニケーションを通して、人との関係を意識し、身近な人との関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。
○自己の理解とコントロールのための支援：
指導員は子どもの特性を理解し、一人ひとりに合わせた声掛けや行動支援を行い、気持ちや感情の調整ができるように支援する。
○集団への参加への支援：
個別活動からグループ活動へ順に進め、一人ひとりの状況や状態に合わせて集団活動への参加を促す。</td></tr>
<tr><td colspan="2">家族支援</td><td>○子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助
○家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助
○レスパイトや就労等の預かりニーズに対応するための支援
○兄弟姉妹への相談援助等の支援
○子育てや障害等に関する情報提供　等</td><td>移行支援</td><td>○具体的な移行又は将来的な移行を見据えて支援目標や支援内容を設定する。
○進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助を行う。
○併行利用先や学校等と子どもの状態や支援内容についての情報共有や支援内容の擦り合わせ等の連携支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域支援・地域連携</td><td>○子どもが通う学校や医療機関等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取組を行う。
○子どもに支援を行う発達障害者支援センターや地域生活支援拠点等との連携の取組を行う。
○子どもが利用する相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携の取組　等</td><td>職員の質の向上</td><td>各種研修への参加と実施
○支援の方針・対応方法の考え方（氷山モデルについて）
○「訓練」「教育」「療育」を考える
○子どもの発達を考えよう（知的な発達、知能心理検査について）
○虐待防止研修　等々</td></tr>
<tr><td colspan="2">主な行事等</td><td colspan="3">１月　餅つき大会、　２月　節分豆まき・バレンタインチョコ作り、　３月　ひな祭り・お花見・卒業式、　４月　入学式・春の遠足、　５月　子どもの日、　６月　映画観賞会、　７月　七夕、　８　月コンサート鑑賞・夏祭り・スイカ割・流しそうめん、　９月　お月見・月見団子作り、　１０月　秋の遠足・運動会・ハロウィン、　１１月　みかん狩り、１２月　クリスマス会　等々</td></tr>
</table>